Johan Wolfgang von Goethe

ゲーテ

Kihara Buichi
木原武一

一日一言

Johan Wolfgang von Goethe

ゲーテ一日一言

江苏 院图书馆
藏书章

木原武一

海竜社

［著者紹介］木原武一（きはら　ぶいち）

1941年、東京生まれ。東京大学文学部ドイツ文学科卒。文筆家。著書に『哲学からのメッセージ』『大人のための偉人伝』『天才の勉強術』『要約　世界文学全集』『ゲーテに学ぶ幸福術』『人生を考えるヒント――ニーチェの言葉から』『人生に効く漱石の言葉』（以上、新潮社）、『大人のための世界の名著　必読書50』『大人のための日本の名著　必読書50』（ともに海竜社）ほか多数がある。

ゲーテ　一日一言

二〇〇九年七月　十四日　第一刷発行

著者＝木原（きはら）　武一（ぶいち）

発行者＝下村のぶ子

発行所＝株式会社　海竜社

東京都中央区築地二の十一の二十六　〒一〇四―〇〇四五

電　話　東京（〇三）三五四二―九六七一（代表）

ＦＡＸ　（〇三）三五四一―五四八四

郵便振替口座＝〇〇一一〇―九―四四八八六

出版案内　http://www.kairyusha.co.jp

電算写植＝株式会社盈進社

印刷＝半七写真印刷工業株式会社

製本＝大口製本印刷株式会社

落丁本・乱丁本はおとりかえします

©2009, Buichi Kihara, Printed in Japan

ISBN978-4-7593-1078-8

はじめに

この本は、ドイツの詩人で小説家、劇作家、そして、科学者で政治家でもあったヨハン・ヴォルフガング・フォン・ゲーテの作品（書簡や日記、対話録なども含む）から、現代の私たちの心に響く言葉を選び、これに編者の短いコメントをつけ、一年三百六十六日の一日一言としてまとめたものです。

ゲーテは、一七四九年八月二十八日、フランクフルト・アム・マインに生れ、父親は帝室顧問という称号を持つ富裕な市民、母親は市長の娘という、最上層の家庭で育ち（一歳年下に妹のコルネーリア）、大学で法律学を学び、弁護士開業の資格を得た。法律実習のために赴いた町で、すでに婚約者のいる女性に恋して、手痛い失恋を体験し、これが生涯を決定づける

きっかけとなった。同じ頃、失恋のために自殺した友人の話を聞いたゲーテは、一七七四年、これと自分自身の体験を重ねあわせて小説『若きヴェルテルの悩み』を書いた。

『若きヴェルテルの悩み』は出版と同時に大きな反響を呼び、その前年に発表した戯曲『ゲッツ・フォン・ベルリヒンゲン』によって新しい文学の旗手として認められていたゲーテの文名はドイツ国外にもとどろき、ナポレオンは『若きヴェルテルの悩み』を七回も読んだと伝えられる。

一七七五年、人口約十万人の小国、ヴァイマル公国に招聘(しょうへい)され、翌年、公国の最高決定機関である枢密会議を構成する三人の大臣のひとりに任命された。のちに八歳年下の若き君主、アウグスト公に次ぐ地位に任ぜられ、財政や外交などの政務を担当すると同時に、鉱山の再開発などにもたずさわり、また、ヴァイマルに宮廷劇場を新設して、その劇場監督として活躍するなど、その後の生涯をこの地で過ごした。

ヴァイマル公国の政治家および行政官としての仕事と並行して、創作活動はつづけられ、数多くの詩のほかに、イタリア旅行の記録『イタリア紀

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.

行』、ひとりの人間の成長と新しい社会のあり方が描かれた長編小説『ヴィルヘルム・マイスターの修業時代』および『ヴィルヘルム・マイスターの遍歴時代』、自伝『詩と真実』、二組の夫婦をめぐる愛の物語『親和力』、老学者が悪魔メフィストフェレスの導きで欲望の限りをつくす戯曲『ファウスト』第一部、第二部などが生み出された。その多くは、長い年月にわたって執筆され、『ファウスト』は着手から完成まで五十八年の年月が費やされた。

科学者としてゲーテは、自然現象全般に関心を寄せ、科学方法論や植物学、動物学、地質学、気象学などに関する論文を書いているが、もっとも力を入れたのは、光あるいは色彩が人間の目にどのように見えるかということに関する研究である。これをまとめた『色彩論』は、大作『ファウスト』をしのぐ、ゲーテのもっとも長大な著作である。

著作以外に、ゲーテの言葉を伝える文献に、対話録がある。ゲーテのもとには、ヨーロッパ各国をはじめ、遠くアメリカからも人びとが来訪し、詩人の言葉を記録した。そのなかでもとくに貴重なのは、ヴァイマルに住

んで、最後の約十年間のゲーテの言行を記録したエッカーマンによる『ゲーテとの対話』である。哲学者のニーチェはこれを「存在する最良のドイツ語の書物」とさえ言っている。

ゲーテの生涯と作品にもっとも大きな影響を与えたのは、多くの女性との出会い、恋愛、ときには失恋である。名前がわかっているだけでも、十代の初恋から七十代の老いらくの恋にいたるまで、十指にあまる恋人の存在が知られ、それぞれの体験が創作の大きな原動力となった。三十八歳のとき、ヴァイマルの造花工場ではたらいていたクリスティアーネ・ヴルピウスと出会い、同棲し、長男アウグストを得て、後に彼女と正式に結婚している。

ゲーテは、生涯の大作『ファウスト』を完成した翌年の一八三二年三月二十二日、八十二年六か月あまりの生涯を閉じた。「もっと光を」という最後の言葉が伝えられている。

ゲーテの言葉のもとにあるのは、この宇宙のすべてのものは、人間も含め、あるひとつの根源から発していて、人間や自然はこの根源となるもの

のあらわれであるという考え方である。ファウストが求めつづけたのも、そのような根源的なものにほかならなかった。

おそらく、ゲーテほど多くのことについて語った人間、それが後世に残されている人間はいないであろう。話題は文学をはじめ、恋愛や人間関係、道徳、人生訓から、歴史、科学、社会の出来事など、森羅万象におよぶ。

どなたが読んでも、思わず膝を打ちたくなるような言葉に出会うことはまちがいないでしょう。

（以下のゲーテの言葉は、各種のゲーテ全集および対話録のドイツ語原文から編者が訳したもので、長い文章を短く要約したものもある）

ゲーテ一日一言——　目次

はじめに —— 1

1月 Januar —— 9

2月 Februar —— 41

3月 März —— 71

4月 April —— 103

5月 Mai —— 135

6月 Juni —— 167

Johan Wolfgang von Goethe

7月 Juli — 199

8月 August — 231

9月 September — 263

10月 Oktober — 295

11月 November — 327

12月 Dezember — 359

ブックデザイン——川上成夫

●

Portrait of Johann Wolfgang von Goethe (1749-1832)
with Decorations (oil on canvas) /
Goethe Museum, Frankfurt, Germany /
The Bridgeman Art Library / amanaimages

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.

1月
Januar

1月1日

詩的才能

私のうちにある詩的才能は、まったく生れつきのものであると、私は考えるようになっていた。外的な自然を私の詩的才能の対象として眺めることが習慣になっていたので、なおさらそうであった。このような詩的才能がもっとも豊かに発現されるのは、無意識のうちに、むしろ、意思に反してあらわれる場合であった。

――『詩と真実』

ゲーテが書いた最初の詩は、七歳の時、祖父に捧げる、新年を祝う詩である。この年代で詩を書く子供は珍しくないが、それが生涯つづいたところに、「生れつきの詩人」たるゆえんがある。

1月2日

ヴェルテル

あれ(『若きヴェルテルの悩み』)はすべてを焼き尽くす業火(ごうか)そのものだ。近づくのが気味悪い。あれを生み出した病的な状態を追体験するのが恐ろしいのだ。

――エッカーマン『ゲーテとの対話』

『若きヴェルテルの悩み』は、恋愛小説であると同時に、若者の精神の危機を描いた小説である。ゲーテは出版十年後に一度だけ読み直したが、その後は再読しないように用心していると言っている。一八二四年のこの日の言葉。

1月3日

長所

他人の長所について考えるのが習慣になると、
知らずしらずのうちに
自分自身の長所もひとりでにわかってくるものだ。

――『ヴィルヘルム・マイスターの修業時代』

いつも何を考えているかが、その人のひととなりをつくり上げる。
良いことをいつも考える人は、良い人に、悪いことばかり考えている人は、悪い人になる。

1月4日

幸福

子供のように一日一日を生きる人間こそ、もっとも幸福だ。

――『若きヴェルテルの悩み』

新約聖書「マタイによる福音書」に「明日のことまで思い悩むな。明日のことは明日みずからが思い悩む。その日の苦労は、その日だけで十分である」と記されている。一日一日を楽しむところに真の幸福がある。

1月5日

執筆療法

私を喜ばせ、苦しめ、その他、
私の心を動かしたものを
ひとつの形象、ひとつの詩に変え、
そのことによって私自身に決着をつけ、
心を鎮めるという傾向は、
生涯、消えることがなかった。

——『詩と真実』

『若きヴェルテルの悩み』を書いたのも、自分自身の体験に整理をつけ、精神の危機から逃れるためであった。言うなれば、創作によって心を鎮めるための「執筆療法」である。俳句一句よむだけで、心は鎮まる。

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.